

まな 学びや

放課後の
かがいじゅぎょう
課外授業



- 第1週 音楽 豊島岡女子学園中・高校 柴田由美先生
- 第2週 化学 渋谷教育学園幕張中・高校 佐原奈保子先生
- 第3週 美術 女子美術大学付高・中学校 遠山香苗先生
- 第4週 数学 栄光学園中学高等学校 枝村組子先生

春休みにおすすめする本

みなさん、春休みをいかがお過ごしですか。まもなく新学期を迎えるので、どんな1年になるのかと緊張している人がいるかもしれません。さて、今回の学びやの課外授業では、東洋英和女学院中高部の先生2人に新学年を迎える前の春休みにじっくり読んでほしい本を紹介してもらいました。【まとめ・田村彰子】

考える姿勢を知ろう

まず、学校図書館の管理などを担当する司書教員の植田亜里沙先生が2冊の本を選んでくれました。今は、何でもネットで調べると簡単に「答えらしきもの」が出てくる時代です。植田さんは「ネットのような便利なものは積極的に使った方がいいと思いますが、それでもじっくり考えたり、いろいろなものを比べて検証したりすることが大事なことは変わりはありません」と話します。今回の2冊は、物事を考える姿勢などを教えてくれる本だと思い、選んだそうです。

「ことばハンター」

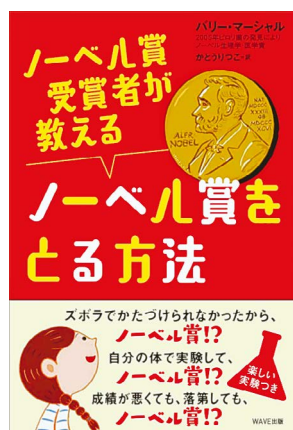
飯間浩明・著
ポプラ社



毎小で「日本語どんぶらこ」を連載中の飯間浩明さんの著書です。飯間さんは国語辞典の編纂者として、毎日のように「ことば」を集めています。植田さんは「筆者は、辞書をたった一つの正解ではなく、相談相手にしてほしいと伝えています。言葉を常に変化するものととらえる、柔軟な考え方を知ってもらえたらいいですね」と話します。この本では、どうして国語辞典をつくる仕事についたかや、生活の中でどうやっておもしろいことばを見つけているかなどが書かれています。

「ノーベル賞受賞者が教える ノーベル賞をとる方法」

バリー・マーシャル・著
かとうりつこ・訳
WAVE出版



「ことばハンター」が文系ならば、こちらは理系の本。ノーベル賞をとった科学者が、小学生の孫に分かるように、研究で大事なことや科学の発見について語っています。文章は物語形式で、サイエンスが好きな少女がタイムマシンに乗ってさまざまなノーベル賞受賞者に会い「どうすればノーベル賞取れますか?」と聞いていくので、読み進めやすいです。身近なものでできる実験も紹介していて、楽しめます。「学ぶために必要な姿勢を教えてくれる本だ」と植田さんは説明しています。

◇教えてくれた人

東洋英和女学院
植田亜里沙先生
大湊朱実先生



東洋英和女学院の司書
教員・植田先生(左)
と家庭科の大湊先生

多様な人の気持ち

続いて本を紹介してくれたのは、中学校1年の学年主任を務めている家庭科の大湊朱実先生です。大湊さんは、小学6年生と1年生の子どもがいるお母さんでもあります。おすすめする本は、どちらも主人公の心の変化が丁寧に描かれています。「いろんな人がいて、いろんな考え方がある、というのを子どもたちに読み取ってほしいと思っています」と話します。そのため、メッセージ性のあるタイトルの本を見ると手に取ることが多いようです。

「もう逃げない！」

朝比奈蓉子・著 こより・絵
PHP研究所



小学5年生の主人公の男の子は、いつも怒鳴るお父さんとの関係もあり、毎日のおなかを壊してしまっています。そのため、同級生にからかわれるようなことも。しかし、友達に誘われて近所の人の犬の散歩を始めたことで居場所を見つけ、精神的に成長していきます。大湊さんは「例えば学校でうんちを漏らしてしまうって、子どもにはとても大きな失敗です。実は、失敗談ってあまり人からは聞けません。こうした本で主人公の気持ちの変化を追う中で、大変なことがあっても乗り越えていけるんだと思ってもらえれば」と話しています。

「きっと、大丈夫」

いまたあきこ・著
黒須高嶺・絵
文研出版



アゲハチョウの卵を育てる約束をしていた主人公の女の子のお兄ちゃんが、ある日事故で亡くなってしまいます。家族は深い悲しみにおそわれますが、1年後、主人公は一人でアゲハチョウを育てることを決意します。大湊さんは「私たちは全然違う経験をした人たちと、集団で暮らしています。だからこそ、その全く違う経験を本で少しでも知ることが大事なのではないでしょうか」と言います。大人になるにつれて、世界は広がっていきます。そんな時に、本から学んだ人の気持ちがきっと役に立つはずですよ。